

自閉症・情緒障がい学級 図画工作科学習指導案

日時 平成24年11月2日(金) 5校時
場所
児童 4年生男子3名
4年生女子1名 計4名

- 1 題材名「モナリザは怒っている!？」 【鑑賞(1)】
「一万年後の人たちに壁画で伝えたいこと」【表現(2)】

2 題材設定の理由

(1) 学級の実態

本学級は、4年生男子3名(A児、B児、C児)、4年生女子1名(D児)の計4名の児童で構成されている。A児、D児は入学当初からやまなし学級で学んでおり、B児は入学当初は通常学級で学んでいたが、1年生の7月からやまなし学級で学んでいる。C児は3年生の5月に東京から転校してきた児童である。

A児、B児、D児の3名は学校への適応に課題も見られたが、小学校での生活も4年目を迎え、学習面や生活面、行事等への取り組みにおいても自信をもって活動する姿が見られるようになってきた。また、C児は1年生の3学期から学校へは登校しておらず、転校当初は不安な様子も見られたが、今では学校生活にも慣れ、学習にも行事等にも意欲的に取り組むことができるようになった。

ただ、児童一人一人の興味・関心は大きく異なり、どの教科においても課題を設定する際にはその点に配慮しなければ学習そのものの成立が困難になる場合があり、配慮が必要である。しかし、これまでの指導の中で、4名の児童に共通する興味・関心として「造形活動」があることが分かってきた。反対に、自分のイメージを絵や立体工作に表すまでに多くの支援が必要な児童もおり、さらに、4名の児童に共通する課題として「自分の考えを相手に伝える表現力」に課題があることが見えてきたため、そこに課題設定の可能性を求めた。

(2) 題材について①「モナリザは怒っている!？」

美術作品を見ると、「どう見ていいかわからない」、「何が言いたいのだろう」という思いをもつ人が少なくない。難解な現代アート作品となると全くのお手上げ状態となる。そこで、大人は図録や壁面のキャプションを丹念に読む。しかし、これは美術を知る行為であって、見る行為ではない。これに対し、子どもは書物や知識に頼るのではなく、自分の目と心と頭脳を駆使して作品を鑑賞しようとする。

近年、アメリカ・アリナス(註1)の鑑賞教育実践が広く知られるようになるにつれて「対話による鑑賞教育」の授業実践も少しずつ報告されるようになってきた。見たいところから見ていた子ども達は、次第に指導者との対話の中で作品の意味を探り始める。他の児童が気づいたことを手掛かりに、作品から最初に受けた自分のイメージが変容していく。美術は作品の中やその奥まったところに隠れているのではなく、作品とそれを見る子どもの間に立ち現われる。

この実践は、学習指導要領 図画工作〔第3学年及び第4学年〕【鑑賞】の指導内容

(1) 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。

の具現化に取り組んだものであるが、先行研究は全て通常学級で行われたものであり、特別支援学級における実践はまだ報告されていない。自分の考えを相手に伝えることに課題がある本学級の児童にとっては、成果が目に見えるようになるまで時間がかかると思われるが、それ故に取り組む価値のある題材であると考え。教材として取り上げる作品については、モナリザの他ピカソやラスコーの洞窟壁画等、児童の興味・関心を考慮して選んでいく予定である。

(3) 題材について②「一万年後の人たちに壁画で伝えたいこと」

学級の子どもたちは、昨年の鑑賞の学習で「ラスコーの壁画」についてその謎の解明に挑戦したが、その際に何万年も前の人間が描いた絵の造形的な美しさにも非常に強い関心を示した。洞窟の壁画については、何の為に描かれたのかは現在も謎のままではあるが、それらの絵からは当時の生活の様子が伝わってくる。

そこで、もし学級の子どもたちが「一万年後の人たち」に現在の様子を絵で伝えるとしたら、どんな絵でどのように伝えるだろうか、というのが題材設定の端緒である。また、具体的に絵に表していくためには、

①現在の生活の中から、絵のモチーフとして何を選択するのか

②何を使って絵を描いていくか

③どのように自分の絵・自分たちの絵を組み合わせしていくか

等、現在学級の子どもたちに課題として認められる「自分の考え（イメージ）を相手に伝える表現力」を育てるのに適した題材であると考える。

これは、学習指導要領 図画工作〔第3学年及び第4学年〕【A表現（2）】の指導内容

(2) 感じたこと、想像したこと、見たことを絵や立体、工作に表わす活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。

ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。

の具現化に取り組んだものである。

さらに、「A表現」及び「B鑑賞」領域のこれらの題材を関連を持たせながら指導することにより、「共通事項」に示されている指導内容

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

の具現化にも迫ることのできる教材であると考える。

(4) 指導にあたって

これまで担任として指導に当たってきたが、ものを作ることがとても好きな子ども達であることを強く感じた。また、日常生活においては自分の興味・関心の強いことがらについてはいっぱい話することができる子ども達である。しかし、何かについて自分の考えを相手に伝わるように話すことに関しては、多くの課題が見られる。毎朝の「30秒スピーチ」でも「ウン・・・」と考えこんでしまって言葉が出てこない場面しばしばである。また、造形活動においても、自分の中に色々な発想は眠っているものの、それを引き出し形にするまでに多くの支援が必要な児童もいるため、本題材を設定した。

ただ、子ども達は面白味がなければやらない。また、面白味を感じても自分一人の力でやるには困難で失敗の恐れがあるとできない。自分一人の力だけで達成できる領域と、大人がほんの少しだけ手助けしてあげることによって達成できる領域。この2つの水準のズレをヴィゴツキーは「発達の最近接領域」(註2)と呼んでいるが、この領域にこそ十分な発達への支援の可能性があると考え、児童の実態把握により児童個々の最近接領域を探りながら指導にあたりたい。

デューイは、「興味を単に刺激する、あるいは、欲しいままにさせることと、興味を指導することによって興味ある目標を実現させることの間存する差異を私は強調したい」(註3)と言っているが、私もこの学習を通して、子ども達の興味を指導することが少しでも出来れば幸いである。

(註1) アメリア・アリナス：1956年、ベネズエラ生まれ。84～96年ニューヨーク近代美術館教育部の講師として活動。同館が、ニューヨーク市の公立小学校の教師75名と児童3,500名を対象に、5年の歳月をかけて体系化した「視覚を用いて考えるためのカリキュラム」の制作に参加。98年、日本人のために書き下ろした「なぜ、これがアートなの？」が大きな反響を呼び、鑑賞教育の入門書として現在も版を重ねている。現在、世界各国の美術館から美術教育講師やゲスト・キュレーターとして招かれ、対話型鑑賞プログラムや展覧会企画に携わっている。

(註2) 発達の最近接領域 (Zone of Proximal Development)

子どもが自力で問題解決できる現時点での発達水準と、他者からの援助や協同により解決可能となる、より高度な潜在的発達水準のずれの範囲のこと。

(註3) Jane Dewey, “Biography of John Dewey” op.cit., p.38

3 学習指導計画

題材名 「モナリザは怒っている!？」【鑑賞】(15分×9)

<p>【取り上げる作品】〈H23年度〉・レオナルド・ダ・ヴィンチ「モナリザ」 ・ピカソ「ゲルニカ」 ・ラスコーの洞窟壁画 ・児童作品 〈H24年度〉・担任の作品 ・浮世絵「写楽」 ・アルタミラ、ショーヴェの洞窟壁画(本時) ・バスキア(現代美術) ・日本の現存作家(木津文哉・小林志保子)</p>
--

題材名 「一万年後の人たちに壁画で伝えたいこと」【表現】(全7時間)

H23実施 1	○自分の日常生活の中から、一万年後の人たちに伝えたいことを考え、自分のイメージを壁画に描き始める。
H23実施 2	○色々なモチーフを組み合わせたたり、背景に色や絵をつけ足したりしながら、自分の絵が一つの場面になるように描き進める。
H23実施 3	○4人の児童の制作途中の壁画を並べ、感想やアドバイスをお互いに出し合いながら、それらを参考に完成を目指す。 ○鑑賞会をし、友達の作品に対する感想を発表する。
4 (本時)	○「アルタミラ」や「ショーヴェ」の洞窟壁画に負けないような、一万年後の人たちに伝えたいことを、4人で分担しながら一枚の壁画に描き始める。
5	○色々なモチーフを組み合わせたたり、背景に色や絵をつけ足したりしながら、4人の絵が一つの場面になるように描き進める。
6	○児童の制作途中の壁画を並べ、一枚のストーリーのある壁画になるよう考えを出し合いながら協力して絵を描き進め、完成を目指す。
7	○鑑賞会をし、自分たちの作品に対する感想を発表する。 ○自分たちが制作した壁画を廊下の壁に設置し、鑑賞する。

4 本時の指導

(1) 共通の目標

- ・興味をもって作品を鑑賞し、自分なりの感想をもつことができる。
- ・一万年後の人たちに伝えたいメッセージを自分で考え、絵に表すことができる。
- ・友達の絵との関連性を意識することができる。(B・C・D児)

(2) 個人の目標

A児	・「作品」を見て、何が描かれてあるか見付けることができる。 ・身近な生活の中から、自分の興味・関心の強いモチーフを決め、壁画に自由に描くことができる。
B児	・「作品」を見て、そこに描かれてあるものの関係性を考え、発表することができる。 ・現在の世の中の様子や身近な生活の中から、一万年後の人たちに伝えたいモチーフを選び、友達の絵との関連性を意識しながら、壁画に力強く描くことができる。
C児	・「作品」を見て、そこに描かれてあるものの背景の状況を考えることができる。 ・現在の世の中の様子や身近な生活の中から、一万年後の人たちに伝えたいモチーフを選び、4人の絵が関連するものとなるよう友達にアドバイスしながら、壁画を描き進めることができる。
D児	・「作品」を見て、そこに描かれてあるものを声に出して発表することができる。 ・身近な生活の中から、自分の興味・関心の強いモチーフを決め、友達の絵との関連性を意識しながら、壁画に丁寧に描くことができる。

(3) 本時の展開

学習内容及び学習活動	支援と留意事項（全体は○、個々は・）及び評価（◎）				備考
	A 児	B 児	C 児	D 児	
1 始まりのあいさつをする。 ・日直の号令に合わせて挨拶する。	アルタミラやショーベの洞窟壁画の写真を見て気づいたことや思ったことを発表しよう。（学び合い1）				古代洞窟壁画の写真
2 今日の「一枚の絵」を鑑賞する。 ・最初にみんなで今日の絵をじっくり見る。 ・絵を見て、気づいたことや思ったことを自由に発表する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○C児は頭に思い浮かんだことはすぐに話してしまうので、30秒間は全員でじっくり見ることを約束してから鑑賞を始めさせる。まず、絵の中に何が描かれているかを見つけさせ、そこから対話による鑑賞を展開させたい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の好きな動物が見つけれられるまで待つてあげる。 ・自分の考えがまとまり発言できるまで待つてあげる。 ・友達の発言を最後まで聞けるよう励ます。 ・自分で発言できるよう対話の中から本児の考えを引き出す。 <p>◎何が描かれてあるか見つけることができたか。</p> <p>◎描かれてあるものの関係性について、考えを整理して発言できたか。</p> <p>◎絵に描かれてあるものの背景にある状況について考えることができたか。</p> <p>◎何が描かれてあるかを見つけ、声に出して発言できたか。</p>				
3 支持体となる「壁画の壁」に出会う。	○子どもたちに、支持体となるダンボールに実際に触れさせ、手触りや質感を確認させる。				横長のダンボール
4 壁画に最初に描くモチーフを考える。	一万年後の人たちに伝えたいメッセージを、みんなで協力して絵で壁画に描こう（学び合い2）				
5 何で描くかを選択し、壁画に絵を描き始める	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○現在の世の中の様子や身近な生活の中で、一万年後の人たちに伝えたいこと・ものは何か、少し意見を出し合う。 ○友達のアイデアの「いいな」と思うところは、どんどん自分の作品にも取り入れるよう助言する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何を描きたいのかを話しかけながら探る。 ・試行錯誤する時間を十分に確保したい ・一つのイメージをまず形にすることに集中させる。 ・自信をもって取り組めるよう、手順を丁寧に確認する <p>◎身近な生活の中から自分の興味・関心の強いモチーフを決め、自由に描き始めることができたか。</p> <p>◎現在の世の中の様子や身近な生活の中からモチーフを選び、形を意識しながら描き始めることができたか。</p> <p>◎現在の世の中の様子や身近な生活の中からモチーフを選び、力強い線で描き始めることができたか。</p> <p>◎身近な生活の中から伝えたいモチーフを選び、丁寧に描き始めることができたか。</p>				
6 自分のイメージを広げていく。	○ダンボールに自分のイメージを描き始めた児童が現れた段階で一旦全員の作業を中断させ、一斉指導を行う。友達の発想の「よさ」を共有することにより、自分の作品作りの参考にさせたい。さらに、4人の絵がどのように関連していくのか、その可能性についてもイメージを広げていきたい。				コンテ パス マジック 鉛筆 色鉛筆 絵の具 筆ペン ドライバ ー等
7 友達の絵との関連性も意識しながら制作を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師を頼ることが多いため自分の力で制作できるよう励ます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順については個別に再度説明し、自信をもって制作に取り組ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の絵だけでなく、友達の絵とも関連させながら制作するよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児のイメージを会話の中で確認しながら、自信をもって取り組ませたい。 	
8 後片付けをする。	○作業時間及び鑑賞時間確保のため担任も一緒に掃除をし、短時間で終わらせたい。				
9 自分たちの制作途中の作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品にも興味を持てるよう提示の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見る観点を絞り、友達の作品の「いいな」と思うところを発表させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表できるよう、聞く姿勢・態度についても指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを声に出して言えるよう、話しやすい雰囲気を作る。 	
10 次時の学習内容を知る。					
11 終わりの挨拶をする。					